百貨店を支える多様な業務、 雇用管理の工夫で個々の能力を活かす

一株式会社 J F R クリエ (大阪府) ー

老舗の大手百貨店「大丸」、「松坂屋」を核とする 」・フロント リテイリング株式会社の特例子会社として設立されて3年。 社員の能力を見極めながら業務を増やし、戦力化と就労定着化が図られている。







取材先データ株式会社JFRクリエ

〒569-8522 大阪府高槻市紺屋町2-1 TEL 072-684-8068 FAX 072-684-8191

Keyword: 特例子会社、勤務条件、アビリンピック、オフィスサポート、障害者就業・生活支援センター

(文) 豊浦美紀 (写真) 官野 貴

- ┃ 通勤しやすく無理のない勤務時間・勤務日数を設定。 ┃ 1 時間ごとに10分間の休憩、週休2日および年4回5連休を取得
- 2 個々の能力を活かせる仕事をつくり出す
- 3 親会社から出向してくる指導員は「社内公募」で選出



株式会社JFRクリエ代表取締役社長の 松林秀幸さん

林をひた ビジョン。重点課題の一つにダイバーシ きなきっかけは、 働いている。 目にあたる2017年に策定された中期 指導員ら6人を加えた計27人が、 フロントのグループ内から出向してきた 21人 (知的障害13人、精神障害8人)。 J· 精神障害3人)からスタートし、 **R**クリエ」(以下、「クリエ」)を設立した。 設立時から代表取締役社長を務める松ま 障害のある社員は8人(知的障害5人、 秀幸さんによると、クリエをつくる大 J・フロント設立10 現在は ともに

クリエの採用面接では、「『I Will』が 一ができるようになりたい」、「こんな仕 事がしたい」といった意気込みを聞くの は、一般企業と同じだ。そして実際に働 く職場では、「みんなが一緒に仕事をして いくうえで『配慮はするけど、遠慮はし ないよ』という姿勢を基本にしています」 と松林さんは話す。

した。昼休憩50分のほか1時間ごとに10時間帯を避けて、10時~17時30分と設定間は通勤しやすいよう、朝の通勤ラッシュ工夫しているのは勤務条件だ。勤務時

という。
という。
という。
という。

2017年に特例子会社

「株式会社JF

株式会社」(以下、

「**J**・フロント」)

は、

営統合した「J・フロントと「松坂屋」が2007 (巫

リテイリング

特例子会社

老舗百貨店として知られる「大丸_

(平成19)

年に経

老舗百貨店グループの

「例えば私は当初、特例子会社ということでいろいろ気を遣わなければと思ったではないのです。普通の会社として考設ではないのです。普通の会社として考したが、ある企業の方に『福祉施

同じ基準で決められている。

「は、グループ会社の契約社員とほぼりを年末年始などの大型連休の代わりに、クや年末年始などの大型連休の代わりに、クをま年始などの大型連休の代わりに、があれば、グループ会社の契約社員とほぼが、なっている。休日は週休2日の計算だが、なっている。休日は週休2日の計算だが、

けて少しずつ増やしてきたという。 けて少しずつ増やしてきたという。

て業務に挑戦してもらってきました」ります。『この業務ができる社員を採用ります。『この業務ができる社員を採用ります。『この業務ができる社員を採用ります。『この業務ができる社員を採用ります。『この世界ができるだろう』という視点で履歴書や本人の話などを参考に、いろいろな業務に挑戦してもらってきました」

アビリンピックに挑設立翌年から

もに入っている。の5階に、いくつかのグループ会社とと事業所はJR高槻駅南口の松坂屋高槻店中プエの職場を見学させてもらった。

分休憩が4回あり、

実働時間は6時間と



メインルームの大きなガラス窓は、 防音性を保ちつつ視界を確保している



業務グループマネージャ-障害者職業生活相談員の山岸卓也さん

始業時間に合わせ、

タッ 集中を妨げず、 パソコンの作業ルームの壁は、 がわかるよう大きな窓をつくりました。 150㎝の高さになっています. メインル フを務める山岸卓也さんが説明する。 部屋の外にいても互いに様子 ームは、 そっと様子をうかがえる ある程度の防音を保 気持ちの

までに指導員からコメントが入るそうだ。 や担当した業務の感想などを書く。 服薬状況などで、 は就寝時間、 人ロッカーに荷物を入れたら、 してきた。 テー 定時チャイムを合図にラジオ体操から ルで業務日誌を記入する。 メインルームの一角にある個 起床時間、 夕方には終業時の体調 次々に社員が出 体調 (4段階)、 それぞれ 翌朝 内容

> のグル チームとパソコンチー が日 会により朝礼が始まる。 ター 0) 5 項目 ープビジョンである ۴ 体がほぐれたところで社員 この後、 (※1)を全員で読みあげる オフィスサポート ムに分かれて当日 J F R J フロント W

ティションの高さなどを変えたことだとい

業務グループマネージャー兼社長ス

У

で工夫した点は、用途に合わせてパ 築40年超のビルのフロアを改装。

ス

組んでいる様子が

印

象

6

れて仕事が始まった。 この目 の午前中は三つのグループに分か

博多まで散在するグループ会社・ いう。 Ó に声をかけ合いながら、 せながら各ボックスに分け入れる。 書かれている宛先を示す数字を読み合 間で毎日発着する連絡便が大量に届く 用 まず 分けボックスが棚状に並ぶ。 業務を見学させてもらった。 の近くにある小部屋には、 「連絡便・郵便物仕分け」 誤配のないよう2人ペアで封筒 和気あいあ 札幌 店舗と 従業員 80 グ から 超 ル

日でもしっ と業務に取り な立場。

仕事内容の確認をする。 オフィスサポートチームは17人が在籍。



仕分け作業は誤配を防ぐため2人ペアで行われる

仕様統 百貨店で使うリボンの 一を提案し実現

である 類ほどの組合せがある。見本の台紙など 大丸・ われるリ メイン 松坂 「リボン製作」 iv ボンだ。 屋の店頭で贈答用の包装に使 ームでは、 色や太さによって10 が 行われてい

らアビリンピックに挑戦している。 思っています」と意欲をのぞかせた。 で3人が銀賞を受賞した。 に出場し、金賞1人・銀賞2人、 会で、「オフィスアシスタント」種目に挑戦 ようボックスの並び順の変更を提案する いまでは現場のメンバーを育てる指導的 大会出場を目ざして挑戦を続けて 人社翌年には地方アビリンピック大阪 パソコンデータ入力」種目も含め2 オフィスアシスタント」 なと実感しました。 コン操作も習得していけたらい .場したいです」。さらに「できれば、 銀賞を受賞したが、「上には上がいる 設立時に入社した峰美穂さん です」と話す。 積極的に職場改善も図ってきた。 「シフト勤務なので、 かり業務を任せられるように 設立翌年の2018年 業務を行 クリエの主力業務 いつか全国大会に 種目で地方大会 いまも、 私が休み (36歳) いやす 昨 最初は 11 61 全国 年 なと

※1「未来を創ろう!」、「失敗を恐れず挑戦しよう!」、「新しい発想を取り入れよう!」、「自分で考えて行動しよう!」、「良識を持ち、誠実でいよう!」

クリエでは、





クリエで製作されたリボンが、 大丸・松坂屋の各店舗で使用されている



佳^ゕ さん 年6月に入社した。 手間ひまがかかっていました。 ゼンテーションを行ったのです。 長さなどがバラバ で『たしかにそうだ』と経営幹部に了承 手際よくリボン製作をして 病気で高次脳機能障害が残 5歳) 作業効率がぐっと上がりま 仕様統一を提案するプレ 大丸松坂屋百貨店の定例 は、 **、** ラで、 就労移行支援事業所の 以前は手芸店で働 $\frac{2}{0}$ 作業にはとても $\frac{1}{9}$ いた矢野 そこで峰 令 その 和 元

> ないように上達を目ざして かっています。迷惑になら 障害の影響で記憶力や注意 を外してもらったそうだ。 しい思いをすることもあ がどうしても覚えられ 仕分けリストやマニュ が低下したため、 「2人ペアなので助 印刷業務 連絡便

が話す。

もともと各店舗によってリボンの形

最初のころは苦労もあった」と、山岸さん

生産本数は月2万本にもなるそうだ。

きれいにそろえる。

毎日コツコツと作業

に合わせてカット部分の形や曲げ具合を

ということを知っていた山岸さんらに背 で理事長奨励賞を受賞した。絵が上手だ 支援を受けている事業所に見せる記録を **|雇用支援月間ポスター原画コンテスト|** 10分があるとないとでは大違いです いています。 重だという。 矢野さんは昨年、 勤務中は1時間に1 気分転換になるので、 まは休憩時間に定着 当機構主催の 回 10 分間 の休憩 一障害

2019年の障害者雇用支援月間ポスター原画コンテストで 受賞した矢野さんの作品「幸せ運ぶリボン作り」

リボンをつくる矢野静佳さん。 伝票整理なども担当している

中を押され、 と題して描いた。 に取り組む様子を「幸せ運ぶリボン作り と照れながら語っ 受賞もできて、 職場でみんながリボン製作 てくれた。 「クリエの職場を紹介で うれしかったです

置かれた小部屋に行くと、 数十枚から数百枚といった単位で値札を 舗から専用システムを通じて注文が入り、 ときは月50万枚にものぼる。 値札作成業務」だ。 小さな機械で何かが印字されてい メインルームの隣にある印刷機など 翌日には店舗に届けられる。 毎日のように各店 見たことの

介でクリエに入社する際は「大きな音

昨年の春に始めたばかりの業務です。 営業グループマネージャーを務 ックヤードで作業していたも と話す

る森野広昭さんだ。 各店舗のバ を一手に引き受けようと親会社に提案 細かい業務を見つけては関係部署に 請け負うことになりました」

タグ・ラベルプリンタとパソコンを使って値札を出力する



営業グループマネ

障害者職業生活相談員の森野広昭さん

リットがあると思われないといけないので、 内でやったほうがいいかも』といわれるこ 負うことができても『その金額なら部署 得はシビアだという。 価格交渉を含め外注業者との競争です. ともあります。クリエに任せたほうがメ ただし、グループ内であっても業務獲 「それまでと同じ品質・スピードで請け

テープ起こし チームで取り組む

うだ。森野さんが話す がら「経企 (けいき、経営企画)」といっ えることで作業効率も一段と上がったそ 会議も見学し、 ている。全員で大丸松坂屋百貨店の定例 た社内の専門用語などを「用語集」にし 表現になるよう、 ている。だれが取り組んでも同じような まざまな会議の音声から議事録をつくっ ていた。行っていたのは「テープ起こし では、4人がそれぞれパソコンと向き合っ メインルーム向かい側の作業スペース 親会社などで頻繁に行われるさ 経営幹部の名前と声を覚 チーム内で話し合いな

「最初は1分の音声を起こすのに40

彼ら自身、一般業者に負けないクオリティ 間超分を反訳できるようになっています。 50分かかっていましたが、1年ほど経 を目ざしているようです」 たいまは10数分まで縮みました。 月30時

と持ちかけられたりしながら仕事を増や ど、クリエだったらいくらでできる?

してきました。先日も高機能印刷機を購 人したので、これから新規業務を開拓し

ていくところです

提案したり、

逆に『こういう業務あるけ

7業務を担当している。 の勤務シフト入力、書類の電子化など計 テープ起こしのほか取引先の情報入 グループ会社の販売員ら 750 人分

後に別会社に就職したが、 す」と成長ぶりを話す。 とんど周囲と会話もしなかったのですが、 たそうだ。森野さんは「入社当初は、 就労移行支援事業所を経てクリエに入っ 3年ほどで退職。病院でデイケアを受け いまはリーダー役まで務めてくれていま クリエの設立時に入社した。大学卒業 チームの1人、吉田悠太郎さん 体調を崩し (32 歳)

います」 は経理の仕事にも挑戦できたらと思って 語がよく出てくるので役立ちます。 2級に挑戦中です。 社内会議にも専門用 さんが自分のことをよく見てくれ、 キャリアアップに向けて努力もしている。 ありがたいと感じます」とふり返る。自ら や課題も含めて理解してくれているので 吉田さんも、「クリエでは上司のみな 通信教育で簿記る級をとり、 いまは 弱み 今後

分の休憩があるので、隣の休憩室でリフ 作業になることもある。 日によっては、 日中テープ起こしの 1時間ごとに10

> の散歩や趣味のピアノを弾いたりして気 レッシュするほか、「休日には意識的に犬 分転換を図っています」と吉田さん。

公募で集まった指導員たち

けています。 **ろのコミュニケーションでは、´ゆっくり** も大きいと感じたから」だそうだ。「日ご 新しく小規模な組織で、責任ややりがい 熊田幸裕さんは2019年3月に大丸心<<*#だの書きる る。パソコンチームの指導員をつとめる 員6人はいずれも社内公募で選ばれて ていねいに、 **斎橋店から出向してきた。「クリエはまだ** 少しずつ増やしていきたいです_ .向している指導員・マネージャーの社 山岸さんや森野さんを始め、 慎重に、具体的に、 各メンバーができることを クリエに を心が

うようになりました」と応募動機を教え マ友のお子さんが発達障害ということで 期にグループ会社から出向してきた。「マ てくれた。 心理学を仕事でも活かして働きたいと思 相談を受けているうちに、大学で学んだ 採用・広報担当の金庫佐織さんも同時

働く出向社員を公募制で選ぶことのよさ を語る。 代表取締役社長の松林さんは、 一緒に

れまで社内でつちかってきた経験や人脈 意欲を持って仕事や指導に向き合い、 「自ら希望して出向してきた彼らが、

大阪府障がい者サポートカンパニー優良企業:大阪府が認定する、障害者の雇用や就労支援に積極的に取り組む事業者 大阪府ハートフル企業教育貢献賞:障害のある生徒の職場実習の受入れや雇用など、支援学校などに対して職業教育に関する貢献が著しい大阪府内の企業を **%** 2 大阪府が表彰するもの



一回行われる「全員ミ アイデアを出し合う(ミーティング」では、職場改善など (写真提供:株式会社 JFR クリエ) 職場改善などの



んは、パソコンチームの リーダー役も務めている 吉田悠太郎さんは、

全員ミーティングや4者会議

ます」

業務拡大も実現できたのかなと感じてい

働きのおかげで短期間のうちにここまで

されてきました。

たちの一生懸命で、

心を込めた仕事ぶり こうした全員の

してくれます。一方で、障害のある社員 を活かし、さまざまな仕事を発掘し獲得

る。 いる。 れて行動することが多いため「ほかのチー てほしいことなどを打ち明ける社員も るようなワークショップを行ったりして を出し合ったり、 ミーティング」だ。 昼食後の1時間を使って開催する「全員 上も図っている。その一つが月に1 社員同士による職場改善や仕事意識 ある社員は、 その場で自分の障害特性や理解し 最近は業務ごとに分か 社員同士が理解し合え 業務の課題や改善案

切

社内公募で指導員として出向している熊田幸裕さん(左) と金庫佐織さん(右)(写真提供:株式会社 JFR クリエ)

会にもなります」と話してくれた ムがどんな仕事をしているのかを知 日ごろあまり話さない人と交流できる機

題でした。 援センター、特別支援学校など社員が利用 さんにはよく見てもらえていますね」と 岸さんは、「特に特別支援学校を出 提案した業務グループマネージャーの を確認して情報を共有している。 交えた4者で集まり、本人の成長や課題 経った社員を対象に、障害者就業・生活支 は異なる形で定着支援を行うため月に1 していた関係機関、社外カウンセラーを が大事です。 ーの方にしっかり引き継いでもらうこ れないよう障害者就業・生活支援セン りされるため、 面談を行っている。さらに入社後1年 方 外部から招いた産業カウンセラーと クリエでは職場の指導員たちと 学校側の支援が1年間 1年後以降のフォローが課 おかげで担当者のみな その後の定着支援が途 開催を で

2030年度の目標は3.0%

年1月には、 育貢献賞」(※3) を受賞。また、2020 ートカンパニー優良企業」 クリエは設立年に「大阪府障がい者サ 元年度の「大阪府ハートフル 3年目となる2019年9月には 全重協の「令和元年度障害 <u>*</u>2 に認定 企業教

者活躍企業」(※4) に認証された。 !のうちに実績が認められている印象だ さらに事業拡大に向けた取組みが必 短期

要だと社長の松林さんは語る。

クリエの

拠点は高槻市だが、関東や名古屋市での

「点・事業所展開も考えている。

勢が欠かせないとつけ加える。 みの推進には、 話す松林さんは、こうしたクリエの取 持つ経験や工夫を活かしていきたい」 じています。各現場で、私たちクリエ ぞれ障害者雇用を進めていく必要性を感 国内23社のグループ各社でも、 親会社の経営トップ それ Ó 姿

と思っています。トップがしっかりと方 くかかわってくれていることではない 順調である一番の要因は、 受けながらきましたが、 とても大事なことですね との会議の際も理解されやすい。 針を示してくれたことで、グループ会社 ループ各社が障害者雇用に対して温 「周囲のいろいろな方々の協力や支援を やはり取組みが J フロント これ

を目ざし、それに向けた新たなプロジ 30年度には障害者雇用率3・0%達成 ころ2・21%だが、 増やす予定だという。 年目からはグループ会社を少しずつ増 はJ・フロントと大丸松坂屋百貨店、 クトも親会社とともに動き始めている。 障害者雇用率のグループ適用は初年 まは9社となった。 グループとして20 雇用率はいまのと 来年度は2社 2 度

障害者活躍企業:重度障害者を雇用する事業主の団体「公益社団法人全国重度障害者雇用事業所協会」が厚生労働省の委託を受け、障害特性に配慮した 雇用管理や雇用形態の見直しなどの優れた取組みを実施し、障害者を多数雇用し、障害者が活躍している企業を認証するもの